

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Pronunciation & SpeakingⅢ		(NCR24A)
講義名 (コード)	Pronunciation & SpeakingⅢ		(NCR24AX)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	The goal of the class is to work on spoken English and comprehension.
全体の内容と概要	We will use the textbook and multimedia to expose the students to native English and work on conversational skills.
授業時間外の学修	I may give them homework if it seems necessary, but as much as possible we will try to complete the work in class.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times they will be allowed to use their smart phones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Becoming familiar with foreign names.	Unit 1, Names: Covering Listening, Speaking and Vocabulary
2	Working on intonations in various sentences.	Unit 1, Names: Covering Grammar and Pronunciation
3	Able to use basic Q.& A. in personal conversations.	Unit 1, Names: Covering Critical Thinking, Conversation and Student Interaction
4	Learning job related phrases for finding a job.	Unit 2, Work: Covering Listening, Speaking and Vocabulary
5	Using a dictionary and past verb tense.	Unit 2, Work: Covering Grammar and Pronunciation
6	Discussion on job related topics.	Unit 2, Work: Covering Critical Thinking, Conversation and Student Interaction
7	International cultural understanding.	Unit 3, Long Distance: Covering Listening, Speaking and Vocabulary
8	Explaining a reason with a result.	Unit 3, Long Distance: Covering Grammar and Pronunciation
9	Being able to explain cultural behaviors.	Unit 3, Long Distance: Covering Critical Thinking, Conversation and Student Interaction
10	Recognizing main points in a story or speech.	Unit 4, Positive Thinking: Covering Listening, Speaking and Vocabulary
11	Giving the correct stress in multi-syllable nouns	Unit 4, Positive Thinking: Covering Grammar and Pronunciation
12	Class discussion on story endings.	Unit 4, Positive Thinking: Covering Critical Thinking, Conversation and Student Interaction
13		Test Preparation
14		Test
15		Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Q:Skills for Success Listening and Speaking by Jaimie Scanlon, Oxford University Press
参考文献・資料等	N/A
備考	N/A

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Reading & VocabularyⅢ		（ NCR24C ）
講義名（コード）	Reading & VocabularyⅢA		（ NCR24CA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	To increase speed, comfort, vocabulary, and comprehension when reading.
全体の内容と概要	Textbook work, articles and stories, and worksheets.
授業時間外の学修	Stories and articles for reading comprehension.
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Introduction.	Introduction of class, teacher, textbook, and class expectations.
2	Can identify the main idea of a paragraph.	Textbook Unit 1.
3	Can understand and use word families.	Textbook Unit 1.
4	Can understand and use present continuous tense.	Textbook Unit 1.
5	Can gather meaning from context.	Textbook Unit 2.
6	Can understand and restate ideas.	Textbook Unit 2.
7	Can understand and use will for future events.	Textbook Unit 2.
8	Can identify supporting details.	Textbook Unit 3.
9	Can understand and use prefixes.	Textbook Unit 3.
10	Can understand subject verb relationships.	Textbook Unit 3.
11	Can form and take accurate notes.	Textbook Unit 4.
12	Can read a passage and write an opinion.	Textbook Unit 4.
13	Exam prep.	Final exam preparation and review.
14	Final exam.	Final Exam.
15	Exam feedback.	Final exam feedback and Q&A.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Q Skills Reading and Writing 2
参考文献・資料等	Articles, stories, vocabulary lists, and worksheets.
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	GrammarⅢ		（ NCR24E ）
講義名（コード）	GrammarⅢ		（ NCR24EX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	文法を理解することにより読解や会話での表現の幅を広げる。
全体の内容と概要	文章の構成、品詞の役割を学び、練習問題や会話練習を通して使える文法を身につける。
授業時間外の学修	復習として練習問題を解く。また、音読練習をしてスムーズに口からできるようにする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文の成り立ちを理解できるようになる	品詞の種類、句と節、文の要素を把握する。
2	文の種類を理解できるようになる	現在形と現在進行形の違いについて学び、現在形と進行形を使い分けてみる。
3	動詞と文型を理解できるようになる	同じ動詞 (get) でも文型によって意味が変わってしまうことを学ぶ。文型の特徴を知り、見分けられるようにする。
4	動詞と時制を理解できるようになる	現在形と現在進行形の違いについて学び、現在形と進行形を使い分けてみる。
5	動詞と時制を理解できるようになる	不規則動詞・規則動詞の確認をする。過去形と進行形の違いを理解し、使って表現してみる。
6	完了形を理解できるようになる	現在完了形を使う様々な場面を理解する。
7	完了形を理解できるようになる	現在完了形と現在進行形を比べてみる。
8	助動詞の役割を理解できるようになる	それぞれの助動詞の意味を理解し、会話で使えるように練習する。
9	助動詞の役割を理解できるようになる	それぞれの助動詞の意味を理解し、会話で使えるように練習する。
10	態を理解できるようになる	単純現在・過去形の受動態、現在完了、現在進行形の受動態の作り方を理解し文章を作る。
11	態を理解できるようになる	単純現在・過去形の受動態、現在完了、現在進行形の受動態の作り方を理解し文章を作る。
12	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Evergreen English Grammar 23Lessons
参考文献・資料等	マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編), Evergreen, TOEIC(R) L&Rテスト 文法・語彙出るところだけ問題集！
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	通訳演習 I		（ NCR24G ）
講義名（コード）	通訳演習 I		（ NCR24GX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通訳演習を通して、英語・日本語両方のコミュニケーション能力を向上させる。
全体の内容と概要	フリップボード、フラッシュカード、ロールプレイなど、通訳に必要なスキルを学ぶ。初めに簡単な発話することで「使える」表現として定着させ、クイックレスポンスができるよう訓練する。
授業時間外の学修	シャドーイングやリピーティングなど、自習できるものは普段から実践する。 既習内容を復習し、定着させる。
履修上の注意事項等	積極的な発話を心掛ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文章を聞いて記憶する	平易な例文を用いてリテンション（短期記憶）を体験してみる。
2	リプロダクションを理解する	聞いて理解した内容を、要点をまとめて話す練習をする。
3	シャドーイングを理解し実践できる	passageの文章をシャドウイングしてみる。
4	ノート・テイキングの仕方を理解する。	聞いた内容を正確に書き留める練習をする
5	訳せる (E→J Comprehension)	チャンクごとに区切り、前から訳すトレーニングを行う。
6	日本語でメモを取れる (E→J Note-taking)	聞いて理解した内容を、英語・日本語で再現することを考えながら簡潔にメモを取るスキルを学ぶ。
7	日本語に訳せる (E→J Delivery)	聞いた英語を理解し、その内容を漏れなく正確に日本語で説明する練習をする。（passage の文章の通訳）
8	聞いて内容を理解し、英語に訳せる (J→E Comprehension)	聞いて理解した内容を、日本語で再現することを考えながら簡潔に記録する訓練をする。
9	英語でメモを取れる (J→E Note-taking)	話し手のメッセージを、聞き手に分かり易く伝える練習をする。漏れなく伝えられるよう、メモを見ながら話す練習をする。
10	英語に訳せる (J→E Delivery)	聞いた内容を正確に理解し、英語で再現できるよう、サマライズする練習をする。
11	まとめ・復習	聞いた内容を正確に理解し、要点を英語でメモする練習をする。
12	テスト	話し手のメッセージを、聞き手に分かり易く伝える練習をする。漏れなく伝えられるよう、メモを見ながら話す練習をする。
13	FB	前期履修内容のまとめ、復習
14		前期テスト
15		テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ぐんぐん英語力がアップする音読パッケージトレーニング・どんどん話すための瞬間英作文トレーニング
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Discussion I		（ NCR24I ）
講義名（コード）	Discussion I		（ NCR24IX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	For students to learn to debate. That is, to express themselves well in English, to be able to listen to other people's ideas, form opinions and make intelligent arguments.
全体の内容と概要	Practicing discussion, debate and also general English use.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework, but they will have the option of doing research out of class to improve their knowledge. I will provide them time in class to research
履修上の注意事項等	During discussion and debate times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times they will be allowed to use their smart phones as study tools

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Go over syllabus, discover English ability	Syllabus, Getting to know each other, What is debate?
2	Learn to participate	Work on discussion skills, How to ask and answer questions, Importance of everyone participating. Work on numbers
3	Learn to have opinions	Cultural differences in participation, Use a game to practice talking to each other, Group discussion,
4	Learn to listen	Discussion is listening as well as talking, Group discussion. Practice talking about time and prepositions
5	Discussion - share yourself	Learning to share about yourself is important in discussion and debate as well as life. Group discussion,
6	Discussion - share a story	Making your debating interesting. discussions that includes a story. Practice difficult English pronunciation
7	Discussion - seeing the other side	In life and in debating, have to be able to see both sides of an issue. Discuss issues, but you don't get to decide which side you're on.
8	Discussion - practice quick debates.	Last week before proper debate. Explain formal debate process. Practice more with quick, short debates.
9	First competitive debate	Lecture on poise, rules of pro and con, Practice eye contact and speaking clearly.
10	Second competitive debate	Practice using "stand by" cards to take turns. Debate,
11	Competitive debate preparation day 1	Final debate topic, choose teams Explain final exam, research, work on phrases that are useful in debating
12	Competitive debate preparation 2	Get with team, research discuss and practice, strategy
13	competitive debate preparation	,finalize preparation, Last minute group discussion. Final debate performed.
14	Final/ competitive debate	Grading on preparation, participation, English ability, eye contact, etc
15	Solidify learning,	Go over the debate grades

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	社会学 I		（ NCR24K ）
講義名（コード）	社会学 I		（ NCR24KX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	堀 文	時間数	30
成績評価教員	堀 文	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	社会問題について理解を深める。他人事ではなく自分の事として社会問題について意見交換をする。
全体の内容と概要	社会問題に関する動画や資料を見て理解をする。自分の意見を述べ、疑問点や解決策を話し合う。
授業時間外の学修	日常的に社会で起こる問題に対し、自分なりの意見を持つよう意識を高める。
履修上の注意事項等	特になし。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	社会問題について考えるとは	身近な社会問題について考えてみる。
2	少子高齢化の理解	少子高齢化について考える。
3	少子高齢化の理解	少子高齢化について考える。
4	性差問題の理解	性差問題について考える。
5	性差問題の理解	性差問題について考える。
6	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
7	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
8	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
9	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
10	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
11	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
12	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
13	自分で選んだテーマの理解	自分で選んだテーマについて問題提起をし意見を述べる。
14	期末テスト	期末テスト
15	フィードバック	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Global Issue I		（ NCR24M ）
講義名（コード）	Global Issue I		（ NCR24MX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	To improve skills related to understanding and communicating ideas about issues that effect a global community.
全体の内容と概要	Textbook work, group discussion work, group and individual projects.
授業時間外の学修	Research and preparation for projects.
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Introduction.	Introduce class, teacher, textbook, and class expectations.
2	Can understand and express opinions and ideas.	Textbook Chapter 1. Discuss the importance of being globally aware and active. Discuss the importance of critical thinking.
3	Can understand climate change issues.	Textbook Chapter 2. Climate change video. Research and write about possible solutions to climate change.
4	Can express opinions on climate change ideas.	Textbook Chapter 2. Climate change video. Group discussion of climate change issues and solutions.
5	Can understand issues about global water access.	Textbook Chapter 3. Global water access video. Research water access statistics.
6	Can express opinions on global water access.	Textbook Chapter 3. Group project to organize and express water access statistics.
7	Can understand issues about clean energy needs.	Textbook Chapter 4. Clean energy video. Research and write about global clean energy needs.
8	Can express opinion on clean energy needs.	Textbook Chapter 4. Group discussion, how could governments move us towards clean energy?
9	Can understand issues of global poverty.	Textbook Chapter 5. Global poverty video. Research a country affected by global poverty. Prepare a mini presentation.
10	Can express opinions on global poverty.	Textbook Chapter 5. Share a mini presentation to a small group about the country you researched in week 9.
11	Can understand issues of global hunger.	Textbook Chapter 6. Global hunger video. Research groups most affected by global hunger.
12	Can express opinions on global hunger.	Textbook Chapter 6. Discuss with a group how groups affected by global hunger could best be helped.
13	Exam Prep.	Final exam preparation and review.
14	Final Exam.	Final exam.
15	Exam Feedback.	Final exam feedback and Q&A

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Living as Global Citizens.
参考文献・資料等	Video material, worksheets, classroom discussion notes.
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Speech & Presentation I		（ NCR24O ）
講義名（コード）	Speech & Presentation I		（ NCR24OX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	目的別にあわせたプレゼンテーションの構造を学び、説得力あるプレゼンテーションを自ら作成できるようにする。
全体の内容と概要	目的に応じたプレゼンテーションの種類や構成を学び、説得力のあるプレゼンテーションを自ら作成しクラス内で発表する。
授業時間外の学修	プレゼンテーションの練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	プレゼンテーションの構造が理解できるようになる	プレゼンテーションの構造・スキル、聴衆を巻き込む方法を学ぶ。
2	問題解決型プレゼンテーションの構造が理解できる	問題解決型プレゼンテーションの構造を学ぶ。
3	問題解決型プレゼンテーションの原稿を書くことができる	問題解決型プレゼンテーションの題材を決め構成を練る。
4	問題解決型プレゼンテーションの原稿を書くことができる	問題解決型プレゼンテーションの原稿、パワーポイントを完成する。
5	問題解決型プレゼンテーションの発表ができる	問題解決型プレゼンテーションの発表をする。
6	問題解決型プレゼンテーションの発表ができる	問題解決型プレゼンテーションの発表をする。
7	原因・結果型プレゼンテーションの構造が理解できる	原因・結果型プレゼンテーションの構造を学ぶ。
8	原因・結果型プレゼンテーションの原稿を書くことができる	原因・結果型プレゼンテーションの題材を決め構成を練る。
9	原因・結果型プレゼンテーションの原稿を書くことができる	原因・結果型プレゼンテーションの原稿、パワーポイントを完成する。
10	原因・結果型プレゼンテーションの発表ができる	原因・結果型プレゼンテーションの発表をする。
11	原因・結果型プレゼンテーションの発表ができる	原因・結果型プレゼンテーションの発表をする。
12	比較対照型プレゼンテーションの構造が理解できる	比較対象型プレゼンテーションの構造を学ぶ。
13	比較対照型プレゼンテーションの原稿を書くことができる	比較対象型プレゼンテーションの題材を決め構成を練る。
14	比較対照型プレゼンテーションの原稿を書くことができる	比較対象型プレゼンテーションの原稿、パワーポイントを完成する。
15	比較対照型プレゼンテーションの発表ができる	比較対象型プレゼンテーションの発表をする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	Winning Presentations, Present Yourself 2
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	中国語初級 I		（ NCR24P ）
講義名（コード）	中国語初級 I		（ NCR24PX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日常生活やビジネスにおいて中国人と比較的流暢にコミュニケーションが取れる
全体の内容と概要	中国語のテレビや映画の鑑賞を授業に取り入れる
授業時間外の学修	校内の中国人留学生との交流を深める
履修上の注意事項等	四声の発音の仕方

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track1】～【Track3】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
2	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track4】～【Track6】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
3	「生活編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track7】～【Track9】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
4	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track10】～【Track12】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
5	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track11】～【Track15】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
6	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track16】～【Track18】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
7	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track19】～【Track21】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
8	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track22】～【Track24】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
9	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track25】～【Track27】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
10	「実用編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track28】～【Track30】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
11	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track31】～【Track33】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
12	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track34】～【Track36】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
13	「ビジネス編」で使われる表現を読み、書き、聞き、話すことができる	教科書の【Track37】～【Track36】を拼音に気をつけて、読みながら発音する。積極的に先生の中国語を真似し、言葉の意味を訳す。
14	テスト	自分の興味のあることについて、中国語で書き、発表することができる
15	テスト	自分の興味のあることについて、中国語で書き、発表することができる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	中国語電話マスター
参考文献・資料等	ビジネス会話
備考	生徒と先生で会話をする

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス英語Ⅲ		（ NKT24A ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅢB		（ NKT24AB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、特にスピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力の向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズを復習し、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	初対面の同僚に自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
2	ビジネスミーティングで自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
3	ゲストを同僚に紹介することができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
4	1～3回【挨拶】の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	留守電にメッセージを残すことができるようになる	留守電にメッセージを残す方法を練習する。
6	電話で伝言を残すことができるようになる	電話で伝言を残す方法を練習する。
7	同僚に伝言を伝えることができるようになる	同僚に伝言を伝える方法を練習する。様々な場面を想定して適する時制を使えるようにする。
8	5～7回【電話】の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	空港でチェックインできるようになる	空港でチェックインする方法を練習する。
10	入国審査や税関を通過できるようになる	入国審査や税関を通過する場面を練習する。
11	9～10回【海外出張編】の復習	様々な場面を想定して練習する。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	TOEIC対策Ⅲ		（ NKT24C ）
講義名（コード）	TOEIC対策ⅢB		（ NKT24CB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	TOEIC600点をを目指す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙やフレーズを復習し、会話文などの音読練習を行う。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	TOEICテストの概要を理解できるようになる	TOEICテストの構成・概要を知る。
2	Part1の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart1の解き方を学ぶ。
3	Part2の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2の解き方を学ぶ。
4	Part2+3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2+3の解き方を学ぶ。
5	Part3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart3の解き方を学ぶ。
6	Part4の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4の解き方を学ぶ。
7	Part4+5の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4+5の解き方を学ぶ。
8	Part5の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart5の解き方を学ぶ。
9	Part6の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6の解き方を学ぶ。
10	Part6+7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6+7の解き方を学ぶ。
11	Part7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart7の解き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	世界一分かりやすいTOEIC 総合模試600点突破レベル、新装版TOEIC L&R TEST 出る単特急金の1000問
参考文献・資料等	はじめて受けるTOEIC L&Rテスト全パート完全攻略
備考	

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TOEIC対策Ⅲ		（ NKT24C ）
講義名（コード）	TOEIC対策ⅢC		（ NKT24CC ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEICの形式や傾向を理解し、実際のテストに備える
全体の内容と概要	文法・語彙・listeningに必要な知識を増やし練習問題に取り組む
授業時間外の学修	TOEICによく使われる単語を覚える
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	現在・現在完了・進行形を理解し、使い分ける事ができる。	現在・現在完了・進行形の説明後unit 1:part 5の練習問題
2	TOEICのreadingの解き方を理解できる。	文法の復習：unit1 part6 reading 何に注目して読むことが必要かを学ぶ。
3	簡単な場면을英語で説明できる。	写真を見て状況を英語で説明してみる。Unit1 listening に挑戦
4	過去・過去完了・過去進行形の特徴を理解できる。	過去・過去完了・過去進行形を説明後、unit2:part5 の穴埋めの練習問題。
5	Reading の解き方を理解し語彙を学ぶ。	文法の復習：unit 2 part6 reading の練習問題。
6	簡単な文章や会話の聴解ができる。	簡単な英文を聞き、書きとってみる。会話を聞いて内容を理解する練習。
7	不定詞・動名詞のそれぞれの使い方が理解できる。	不定詞・動名詞の使い方を学習後、unit3:part5の練習問題。
8	Reading の解き方と語彙を学ぶ。	文法の復習とunit 3:part6の練習問題。
9	簡単な場면을英語で説明できる。	写真を見てその場면을英語で説明する。会話を聞いて内容を理解する。
10	主語と動詞の関係性に注目しながら文章を読み解くことができる。	主語と動詞の変化の関係を学んだ後、unit4:part5 穴埋めの練習問題。
11	reading の解き方と語彙を学ぶ。	文法の復習とnit4: part 6 reading の練習問題。
12	簡単な文章の書きとりと会話を理解できる	簡単な英語の文を聴きとり書いてみる。会話を聞いて内容を理解する練習。
13	まとめ	テスト対策
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	VERY EASY TOEIC 2 (Compass Publishing)
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢ		（ NKT24E ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢI		（ NKT24EI ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース /WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株） 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	る 自分のレベルに合わせた資格の取得
全体の内容と概要	日商PC検定（3級・BASIC）またはMOS検定のうち自分の受験科目を選択し検定対策をする
授業時間外の学修	資格試験受験に向けて、プログラムや模擬問題でくり返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	到達目標	授業内容	
1	並べ替えとフィルター データの検索と抽出を理解できる	並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出	
2	条件付き書式とテーブル機能 視覚的なデータの把握と管理できる	カラスケール・データバー・アイコンセツト他の条件付き書式の設定 テーブルの作成と機能の利用方法	
3	ピボツテーブルの作成 機能を使ったデータ集計ができる	ピボツテーブルの作成・データの集計の変更方法	
4	受験科目決定し目標を決める MOS検定の問題を確認し理解する	MOS Excel365&2019 Expert模擬第1回を学習 高度な機能を利用したユーザー設定の入力規則や表示形式，関数の利用 分析ツール，グラフ，ピボツテーブルを活用したデータの分析や評価	
5			
6	検定受験対策 (科目ごと学習し 解答できるようになる) MOS Excelの高度な機能を活用し さまざまな目的や状況に応じて 利用環境をカスタマイズできる BASIC 基本的な操作を取得 指示に従った正確なデータ処理	MOS 出題範囲問題 ・ブックの設定管理 ・高度な機能を使用した数式の作成 ・高度な機能を使用したグラフ、 テーブル作成 ・ユーザー設定のデータ表示形式や レイアウトの適用 模擬試験プログラムを活用し学習	Basic 出題範囲問題 (プログラム練習)
7			模擬1 基本の計算式
8			模擬2 グラフの編集
9			模擬3 データベース分析
10			補足問題 累計の計算・レーダーチャート
11	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	資格試験 模擬試験プログラム練習	
12		BASIC 商工会議所サンプルプログラム・FOM出版問題集	
13		MOS FOM出版 Word 2016 Expert 対策テキスト&問題集 (受験できる学生は検定受験)	
14	まとめと解説	期末テスト	
15	まとめと解説	テストF B	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間アカデミック Office2021 MOS Excel Expert 対策テキスト&問題集 日商PC検定試験公式テキスト&問題集 3級（貸出）・BASIC（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント 資格試験対策として日商PC検定・MOSの模擬試験プログラムを利用
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、 Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネスプレゼンテーション I		（ NKT24H ）
講義名（コード）	ビジネスプレゼンテーション I A		（ NKT24HB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	堀 文	時間数	30
成績評価教員	堀 文	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	人前で自分の考え、主張を述べるができる。わかりやすく言葉で人に伝える技術は、将来どのような業種の仕事についても役に立つ。
全体の内容と概要	あるテーマについて原稿を作成し何度も発表練習をする。ただの作文ではなく、聞いている人にわかりやすく、心に響くようなスピーチになるよう話し方の練習もする。
授業時間外の学修	発表練習を何度も行う。
履修上の注意事項等	特になし。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	スピーチとは何かがわかる。	スピーチが行われる場面、目的を考える。 Youtubeでスピーチのビデオを見ながらコツを学ぶ。
2	スピーチ内容の構成が理解できる。	スピーチ内容の構成を学ぶ。テーマを選んでスピーチの原稿を作成する。
3	スピーチ原稿を作成できる。	テーマに沿ったスピーチ原稿を作成する。
4	人前でスピーチができるようになる。	簡単なテーマに沿ったスピーチをクラスの中で発表する。
5	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
6	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
7	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースについて自分の意見をまとめたスピーチを行う。
8	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
9	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
10	写真を使った発表を行うことができる。	写真を見せながら短い発表を行う。クラスメートに評価をもらう。
11	国際問題についての発表を行うことができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての発表を行うことができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についての発表を行うことができる。	国際問題についての発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	日本語資格対策Ⅲ		（ NKT24L ）
講義名（コード）	日本語資格対策Ⅲ A		（ NKT24LA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、コミュニケーション力を高めるとができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	お礼や抱負含むを改まったスピーチができる1	文法：～ところ(を) ～の至り、～をもって 語彙：文脈規定 1
2	お礼や抱負含むを改まったスピーチができる2	文法：～こととて ～にたえねい ～たる 語彙：文脈規定 2
3	お礼や抱負含むを改まったスピーチができる3	文法：～限りだ、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定 3
4	仕事上の話題について、具体的な意見を交えて社内で話ができる1	文法：～じゃあるまいし、～んばかり、～たら/～ばそれまでだ 語彙：文脈規定 4
5	仕事上の話題について、具体的な意見を交えて社内で話ができる2	文法：～ものを、～ときたら、たところで 語彙：文脈規定 5
6	仕事上の話題について、具体的な意見を交えて社内で話ができる3	文法：～（よ）うが、～（よ）うが～まいが、～なら～で 語彙：文脈規定 6
7	仕事上の話題について、具体的な意見を交えて社内で話ができる4	文法：～にすれば、～までのことだ、CHECK 語彙：文脈規定 7
8	仕事の結果について、振り返りながら 社内で話ができる 1	文法：～といったらない、～（よ）うにも～できない、～まくる 語彙：文脈規定 8
9	仕事の結果について、振り返りながら 社内で話ができる 2	文法：～にしたところで、～てみせる、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定 1 0
10	や古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解する	文法：～つ～つ、～ともなく、～べく、 語彙：文脈規定 1 1
11	や古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解する	文法：～からというもの、～ながらに、～までのことだ、 語彙：文脈規定 1 2
12	や古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解する	文法：～をものともせず、～かたわら、CHECK、 語彙：文脈規定 1 3
13	や古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物	文法：～めく、～やいなや、～ごとき、 語彙：文脈規定 1 4
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	文字語彙：ドリル&ドリルN1 文法：TRY N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス翻訳 I		（ NKT24N ）
講義名（コード）	ビジネス翻訳 I A		（ NKT24NA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	秋学期にはビジネスメールなどの翻訳ができるようになることを目指し、今学期はそのために必要な基本文法の総復習を行うとともに、ビジネス英語特有の表現や語彙を習得する。
全体の内容と概要	今学期は基本文法の総復習を行うとともに、ビジネス英語特有の表現や語彙を習得する。
授業時間外の学修	ビジネス英語特有の表現や語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	中学英語の総復習	中学英語の復習とビジネス用語を身につける。
2	中学英語の総復習	中学英語の復習とビジネス用語を身につける。
3	時制が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
4	助動詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
5	仮定法が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
6	受動態が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
7	不定詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
8	動名詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
9	分詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
10	準動詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
11	関係詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
12	比較が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	肘井学のゼロから英文法が面白いほどわかる本
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス翻訳 I		（ NKT24N ）
講義名（コード）	ビジネス翻訳 I B		（ NKT24NB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネスで使われるメール・インフォメーション等を正確に理解し翻訳できるようにする。簡単なメールを英語で書けるようにする。
全体の内容と概要	TOEICのパート6・7の問題に取り組みながら、本文を日本語に書き換えてみる。英語でメールを書くために必要な語彙、形式を紹介する
授業時間外の学修	TOEICによく出る単語・熟語を覚える
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	従業員に宛てたお知らせの文章・送り状を理解できる	お知らせの文を翻訳する。Invoiceの見方・書き方を学ぶ
2	ホテルのウェブページ・レビューが理解できる	レビューのサマリーを日本語で書いてみる
3	電話のメッセージの読み方・書き方を理解できる	メッセージの書き方を学び、実際にメモをとってみる
4	カメラのレビューのweb ページを翻訳できる	それぞれのカメラの評価をまとめて書いてみる
5	割引広告・メールサーバー停止のお知らせを翻訳できる	日本語に翻訳してみる
6	meetingのアジェンダの読み方を理解し、作成できる	meetingのagendaを作り、staffにそれを知らせるメールを作成する
7	従業員に向けたstrategic plan e-mailが翻訳できる	e-mailを翻訳する。
8	車のディーラーからのお知らせとアンケートが理解できる	お知らせの書き方、アンケートの作り方を学ぶ
9	人事部からの職位に関するレターを翻訳できる	日本語に翻訳する
10	ツアーのitineraryを英語で作成できる	簡単なツアー日程を英語で書いてみる
11	会議の議事録を翻訳できる	会議の議事録を翻訳してみる
12	オフィススペースのレンタル広告を理解し、返信できる	オフィスのレンタル広告をみてそれに対する返信を書いてみる
13	まとめ	復習・テスト対策
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	公式TOEIC Listening & Reading
参考文献・資料等	ビジネスで1番よく使う英語Eメール
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	キャリアデザインⅢ		（ NKT24P ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅢC		（ NKT24PC ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	到達目標	授業内容	
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介 前期の内容について説明	【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について 理解する	【企業情報収集方法】キャリアスUCエン トリー、マイナビ活用方法説明	【演習】キャリアスUCエントリー、マイ ナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活 動計画作成	就職活動スケジュール説明 就職に必要な書類、スキル、準備物	【演習】就職活動スケジュール作成（シート記入）就職に必 要な書類、スキル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・ 外的キャリアを考える方法	【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の良い所を見出 し、自己理解、自己PR書作成に生かす。	【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見 た自分の長所から自己PR書に落とし込む	【演習】自己PR書作成 200字～400字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ6つの視 点を知り、志望する企業を選択	【演習】企業研究 進路手帳ワークブ ック利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どん な仕事に興味があるか？どんな会社か？	【演習】興味がる仕事、会社の研究シー ト作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、 ポイントについて	【演習】面接に向けた行動計画と準備、 行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する （1）	【面接について】基本スキルの確認 集団面接、個別面接、グループディスカッション	【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する （2）	【面接】悪い面接マナー説明 服装、挨拶、言葉遣い、姿勢	【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マ ナー復習 評価項目について	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同 士で評価、講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業へ の応募、連絡方法について	【演習】インターンシップ計画表作成 （進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式	【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	まとめと対策	【テスト F.B】	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う